

○君の学習支援～青空を見上げて～



国際学部 4年 遅 宸 琳

ふと顔を上げて青い空を見たとき、地球上の他の場所でも同じ景色が見られるのではないかと思わずにはいられなかった。でも、同じ風景の中、同じじゃないストーリーがある。私たちが共通して信じている一つの物語りが文化だと考えるのであれば、この物語をどのように理解すべきだろう。一つ確かなことが、違う物語の間を行き来することは簡単ではない。

2021年後学期に、私は旭中学校の中国人学生、Oくんをサポートし始めた。他のHANDSボランティアとの会話で、彼が学業成績と学習状態に直面した困難について分かった。クラスで寝たり、宿題をしなかったりし、試験で0点を取ることもよくあるとのことだった。また、彼がお母さんと日本に来てから1年足らずとのことも知った。そして、この日本での短い中学生の生活も、来年の高校入試で終わりに近づいている。15歳の彼にとって、環境も心境も大きく変化した一年になるだろう。

彼の作文を読んだら、日本語が分からなくてクラスに溶け込むことができないことや、学校の給食に慣れないなどのことも分かった。簡単な日本語しか使われていないで書かれている文字に潜む15歳の彼の辛さと不安を感じた。しかし、クラスで中国語のできるクラスメートと友達になったことや、学校の日本語教室と文化交流センターの先生たちへの感謝の気持ちもきちんと書いた。

日常生活を見て、やはりクラスメートの中に、互いの気持ちの理解がうまくいかなかった子も

いる。サッカーなどする時、他の学生と衝突し倒れたことがあったが、サッカーやバスケが嫌になることはなかった。冬になって寒くなり、彼は母親に手袋を買った。こういった母親への思いやりも忘れられない。学習支援で彼と出会ったが、その生活中的な責任感と優しさに励まされた心の中で思った。

とちぎ自主夜間中学の年末交流会では、彼が学習者の中の最初の発表者だったが、うまくできた。学習においても、彼が成長を見せてくれた。学校の授業で、支援開始時に日本語がわからないから眠りにつくことが多かったが、今になって家で積極的に勉強する姿が見えるようになったことが彼の母親から分かった。自分も周りの皆も、進学先について心配したが、高校に進学できた結果を聞いて、感動した。

今期の短い支援活動によって自分の力不足を深く感じた。クラスでの学習サポートに関しては、先生たちの日本語を中国語に通訳するだけでなく、共同学習の姿勢で教室で授業を聞くことが大事だと思う。自分は再び中学生の同級生の目線でOくんの辛抱を見て、共感できることが多くあった。今回の支援活動で、Oくんの努力と向上心を見て感銘を受けた。

Oくんと共に高校入試をという特別な時期を再び体験し、支援活動を改めて理解することができた。一緒になって、問題解決する魅力を深く感じた。今後もぜひHANDSの支援活動に参加したい。